

「つくば市科学技術振興指針」概要

つくば市の目指す方向： 国際戦略総合特区を契機とする新しいまちづくりへの挑戦

なぜいま指針を策定するのか

- ・国内外の経済社会の激動や直面する課題の克服、都市の成熟に向けたまちづくりに向け、つくばの科学技術への期待が大きい。
- ・地域資源である科学技術や人材の力をつくば市が先導して融合し、市民生活の向上や国の成長戦略への貢献を図る。

市民や産学官の協働による「相乗効果」を生むまちづくりを

- ・魅力ある拠点都市づくりで、国内外から企業や人材、投資などが集まる。
- ・新産業・雇用の創出や、直接的・間接的に、医療や福祉、教育、観光、インフラの充実など市民生活への波及や、地域の活性化が期待される。
- ・取組の積み重ねが新たなまちづくりやイノベーションにいかされ、そこで育まれた成果や人材が再び世界で輝いていく、「好循環」が生まれる都市へ。

つくば市と筑波研究学園都市の歩み

- ・市制25周年。建設閣議了解(1963年)から来年50周年。
- ・東日本大震災や竜巻被害など未曾有の災害を経験。

つくば市の近年の主な変化

- (1) 地域のガバナンスの向上
- (2) 都市の動脈やインフラの進展
(つくばエクスプレスや沿線開発、都市の利便性向上)
- (3) 制度面の改善や地域の連携機運の高まり
- (4) 新たな地域連携モデルの進展
(つくば環境スタイル、TIA、ロボットの街、教育日本一など)
- (5) 「つくば国際戦略総合特区」指定(全国7地域)



「つくばの強み」をいかし、

- ・世界でも例のない規模の幅広い研究機関や人材の集積
- ・豊かな自然や歴史・文化、多様な市民が創造的活動を育む土壌

「つくばの課題」を乗り越えるもしくは強みに変えていく。

- ・省庁縦割り、共通目標不在 → 地域主導の戦略立案やガバナンス、ワンストップサービス
- ・成果の実用化・産業化 → 戦略分野の産学官連携「拠点群」
- ・都市面積の広さ → フィールドや市民参加をいかした実証実験
- ・規制や制度の壁 → 総合特区による規制緩和や地域独自支援
- ・生活環境の魅力 → 国内外から評価される「住みたい」都市づくり

～ 今こそ、新しいつくばのまちづくりを ～

1. イノベーションを育み、社会の発展に貢献する都市

- (1) つくばの戦略の立案及び実行を担う活動体の構築
(つくばを変える新しい産学官連携のシステムづくり)
- (2) つくばのフィールドを活用した新たなイノベーションモデルの構築
(ロボット、ナノテク、環境、先進医療などの「拠点群」づくり)
- (3) 地域連携による産業の活性化
(つくばにしかできない企業立地等の環境づくり)
- (4) 戦略的な広域連携の推進
- (5) つくばや日本の将来を担い、世界で活躍する人材の研鑽場(けんさんば)の構築



2. 世界中から企業や人材を迎え、活躍できる都市

- (1) 知の拠点として国際的に魅力ある都市環境の整備
- (2) 外国人生活支援の充実と活動の体系化・ネットワーク化
- (3) 外国人が安全・安心に生活できる環境整備



3. 誰もが住みやすく、魅力あふれる都市

- (1) 魅力あるライフスタイルの実現・発信
- (2) 「住みたいまち」「子育てしやすいまち」の実現
- (3) 「わくわくするまち」の実現

